

# Jリーグ規格スタジアム整備基本計画

【概要版】



平成 29 年 8 月

沖縄県

【整備計画の概要】

Jリーグ規格スタジアム

- ◇ 2万人収容スタジアムとする。
- ◇ 現陸上競技場に配置する。
- ◇ サッカー・ラグビー等のフットボール全般に活用する。
- ◇ イベント等の多目的利用を図る。

奥武山公園駅

沖縄セルラースタジアム那覇

水泳プール

県立武道館

フットサルコート

- ◇ サッカー・ラグビー大会の際のウォーミングアップ場として整備する。
- ◇ 日常的にはアカデミーや選手強化、一般利用に活用する。

立体駐車場

- ◇ スタジアムには多くの運営関係者・VIP が訪れるため、十分な駐車場が必要である。
- ◇ 公園内駐車場は、各種大会等で使用されているため、スタジアムによる増加分は独自に確保する。
- ◇ スタンド下に駐車場を配置するが、不足分を立体駐車場にて確保する。

国場川沿いのにぎわいづくり

- ◇ スタジアムと一体的な活用を図り、飲食・物販の屋台を配置して、にぎわいを創出する。
- ◇ 水面活用や照明等の空間演出によって魅力の向上を図る。

壺川駅

沖縄県体協スポーツ会館

## 【事業の目的】

沖縄県は「スポーツアイランド沖縄」の実現に向けて、競技スポーツ及び生涯スポーツの振興を図るとともに、スポーツコンベンションを推進し、スポーツキャンプやイベントの誘致、スポーツを通じた交流の推進など、スポーツを活用した観光振興等に取り組んでいるところである。

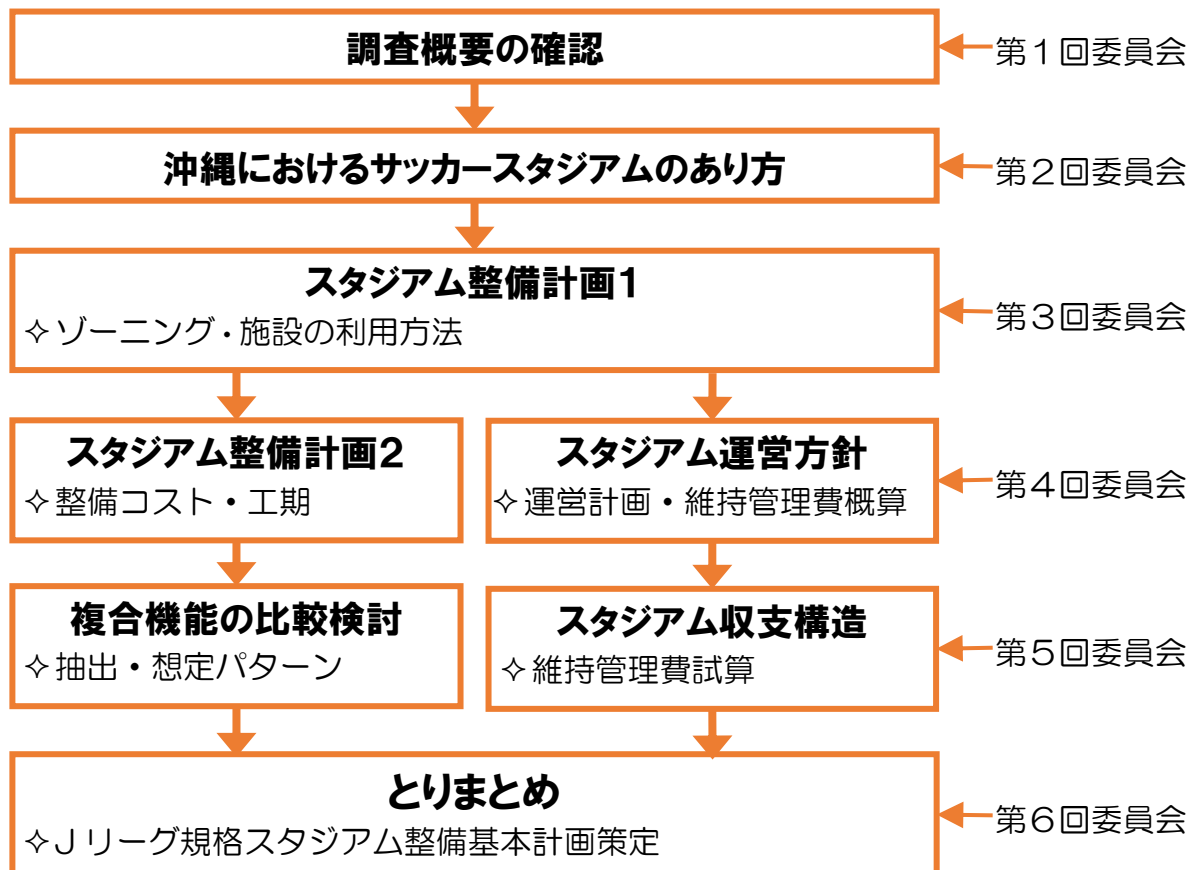
サッカーは、世界的に人気が高く、アウェイツーリズムなど新たな誘客に繋がることから、観光振興等を図る上での重要なスポーツコンテンツの一つとなっているが、本県には、サッカー振興の拠点となるサッカースタジアムが未整備の状況にある。

本県には、FC琉球や沖縄SVなど、将来のJ1を目指すチームが存在しており、これらチームの活躍の場を確保し、「観るスポーツ」をとおして青少年に夢を与えるという観点からも、Jリーグ規格スタジアムの整備は重要な課題となっている。

これまで本県では、平成23年度に「Jリーグ規格スタジアム整備基礎調査」を実施するとともに、平成24年度に「Jリーグ規格スタジアム整備基本構想」を策定するなど、J1規格スタジアムの整備について検討を行ってきた。

本業務においては、これら調査や那覇市の策定した「奥武山公園整備全体計画」及び「奥武山公園スポーツ施設整備基本構想」等の内容を参考に、Jリーグ規格スタジアム整備に向けた基本方針、複合施設の可能性、施設計画等についてより具体的な検討を行い、基本計画を策定することとする。

## 【調査概要】



## 【計画地選定の経緯と立地特性】

### ■候補地選定の経緯

#### 近年のスタジアム整備動向

◇欧州でも米国でもスタジアムの整備位置は街なかに回帰している。

**理由1**：スタジアムの集客力は人口減少時代の市街地ににぎわいを呼び戻す。

**理由2**：都市のイメージアップにつながり、多くの住民から親しまれる街のシンボルとなる。

**理由3**：観戦後に観客が市街地で滞在・消費することで、混雑の緩和と新たな消費誘導に寄与する。



#### 沖縄県における候補地選定理由

◇H24 基本構想において、本島内から、スタジアム整備が可能な大規模な土地を抽出（軍用地、民有地、利用制限のある土地を除く）し、選定。

**奥武山公園**

**豊崎タウン**

**東浜マリンタウン**

◇3つの候補地を比較した結果、周辺人口が多くマーケット規模が大きいこと、交通アクセスに優れていること、沖縄県のスポーツの中心地の一つでありスポーツ振興との連携が図りやすいことなどの理由から、奥武山公園が最も望ましいとされた。

### ■計画地の立地特性

#### 奥武山公園

◇沖縄県民ならば、誰もが知っている都市公園。

◇産業まつりなど、イベントやスポーツ大会の会場として認識されている。

◇多くの県民にとって思い出の地であり、特別な場所となっている。

#### 歴史

- 沖縄県のスポーツの中心地である
- 那覇港に近く、琉球王国時代から国際的な場所であった。

#### 立地

- 那覇空港、バスターミナル等と近接し、アクセス性に優れる。
- 国際通り等観光地と連携が図りやすい。

#### 景観

- 国場川沿いの水と緑の景観が魅力である。
- 多くの観光客から目立ち、視認性の高い位置にある。

## 【沖縄におけるサッカースタジアムのあり方】

### ■テーマ

沖縄県は「スポーツアイランド沖縄」の実現を目指しており、競技スポーツの振興、スポーツコンベンションの推進による観光振興を図るとともに県民の健康増進や青少年の健全育成に取り組んでいる。

サッカーは世界的に人気が高く、様々な分野への波及効果が期待できるスポーツであり、スタジアムにおいても特に観光振興と人材育成への貢献が望まれることから、スタジアムのテーマを「感動体験型リゾートスタジアムの創出」と設定する。

### スポーツアイランド沖縄の実現

人気の高いスポーツである**サッカー**を活用

#### 観光振興

- ・アウェイツーリズムによる集客
- ・新たな観光コンテンツの創出
- ・日常的なにぎわい拠点づくり

#### 人材育成

- ・子どもたちに夢を与えスポーツ活動の機会を提供する。
- ・多様な体験・交流による人材育成

### 感動体験型リゾートスタジアムの創出

### ■整備目的

#### 沖縄観光の魅力を高める新たな観光拠点の創出

- ◇沖縄観光の楽しみの選択肢を増やす新たな都市型リゾートを創出する。
- ◇スポーツを核とした多様なエンターテインメント空間を形成する。

#### 子どもたちとスポーツが触れ合うきっかけづくり

- ◇子どもたちに夢を与え、スポーツに取り組むきっかけづくりを行う。
- ◇スポーツをとおして、何事にも積極的に取り組む人材を育成する。

#### 文化交流・国際交流等多様な体験空間の創出

- ◇スタジアムや複合施設を活用した多様な体験の機会を創出する。
- ◇試合のない時でも多くの人が集うにぎわい空間を創出する。

## 【スタジアムの規模】

### ■Jリーグスタジアム関連基準

◇ J1 ホームスタジアムの規模は 15,000 席以上。

◇ 将来的に 20,000 席以上とすることを協議。

### ■J1クラブの運営に必要な規模

◇ 一定の成績を残すためには選手確保（人件費）が必要であり、入場料収入は重要。

◇ J1クラブの安定的な運営には、2万人規模のスタジアムとそれに見合った集客が必要。

※下表、参考を参照。

**J1クラブには収容2万人のスタジアムが必要**

**集客力向上が課題**

### 沖縄における集客力向上策の一例

#### 《サッカー振興》

- ◇ サッカーを“する”機会を提供し、プレーする環境を整備する。
- ◇ 指導の質を高め、楽しめるサッカー環境を提供する。

#### 《集客力の高い人気クラブの育成》

- ◇ J1クラブの育成と観戦環境の充実を図る。
- ◇ 魅力的な企画や県出身選手など、愛されるチームの育成。

参考：スタジアム規模に関するJリーグ及びJFA基準一覧

	15,000 人	20,000 人	25,000 人	40,000 人～	
Jリーグ 基準	J1公式試合(現行)				
	J1公式戦(将来)				
JFA 基準	クラス2 15,000～20,000		クラス1 20,000～40,000		クラスS 40,000～
	ACLリーグ戦				ACLリーグ決勝
	オリンピック代表戦				A代表戦

※収容人数は券売可能な実数とする。

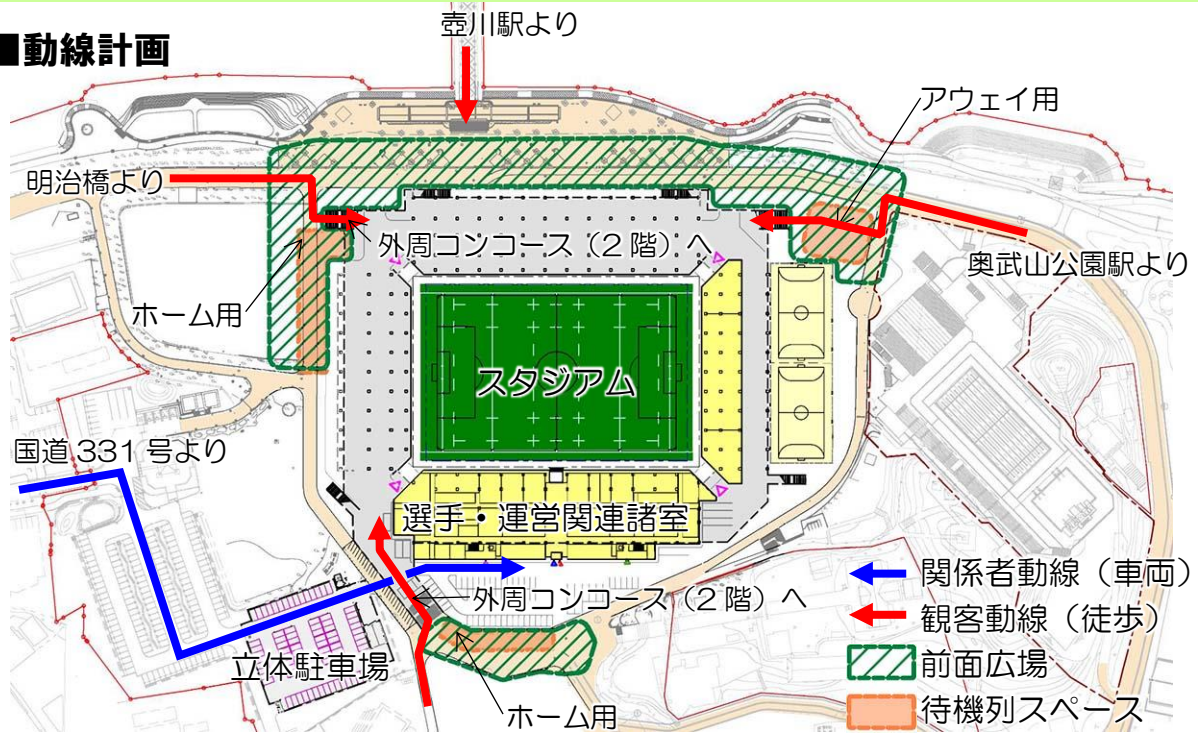
# 【スタジアム整備計画】

## ■配置計画



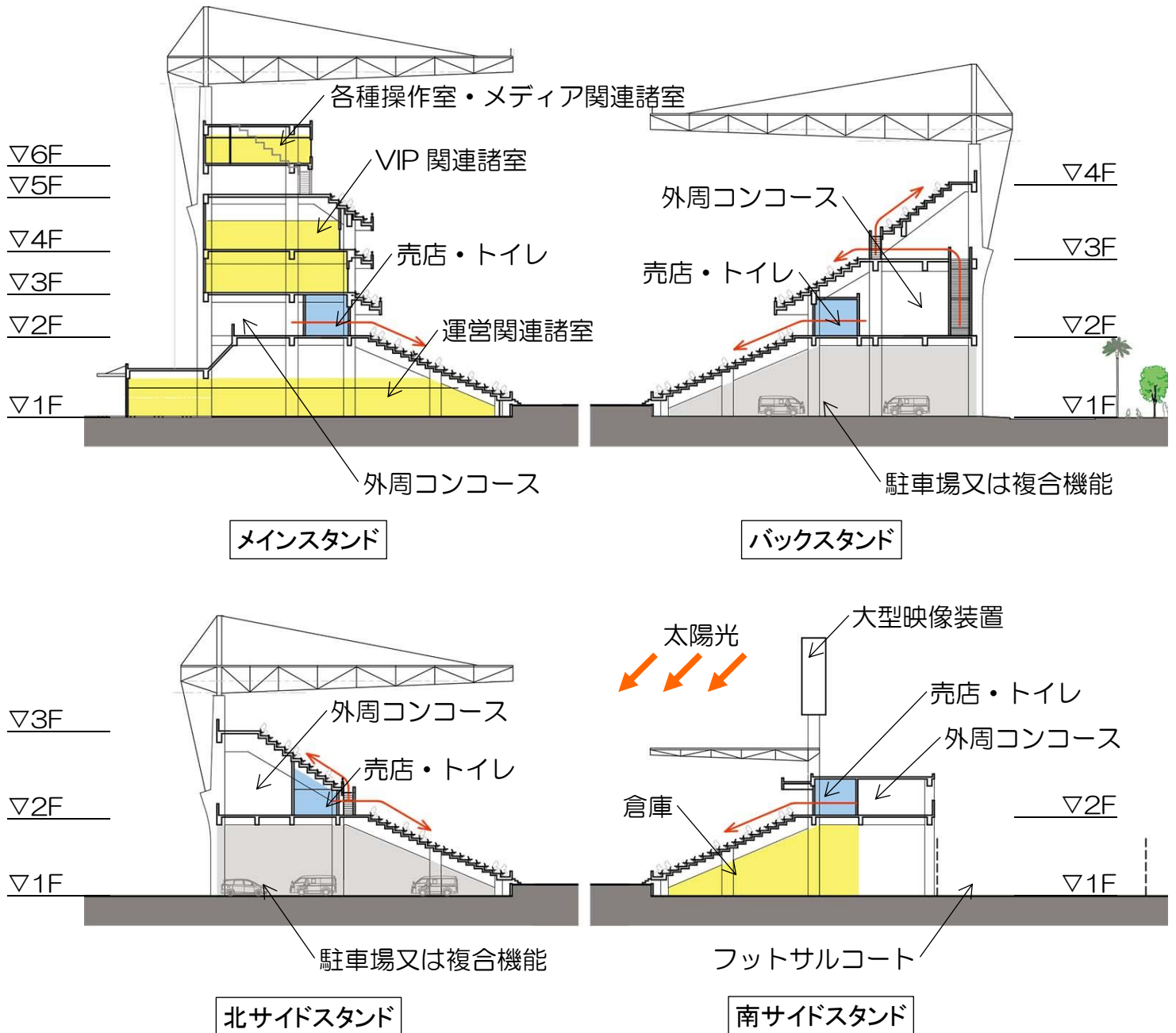
◇スタジアム及び立体駐車場は、現陸上競技場及びその周辺に配置する。

## ■動線計画



◇観客と関係者の動線を明確に区分する。  
 ◇主に観客は徒歩で壺川駅側から、関係者は車両で国道 331 号からアクセスする。

## ■断面計画

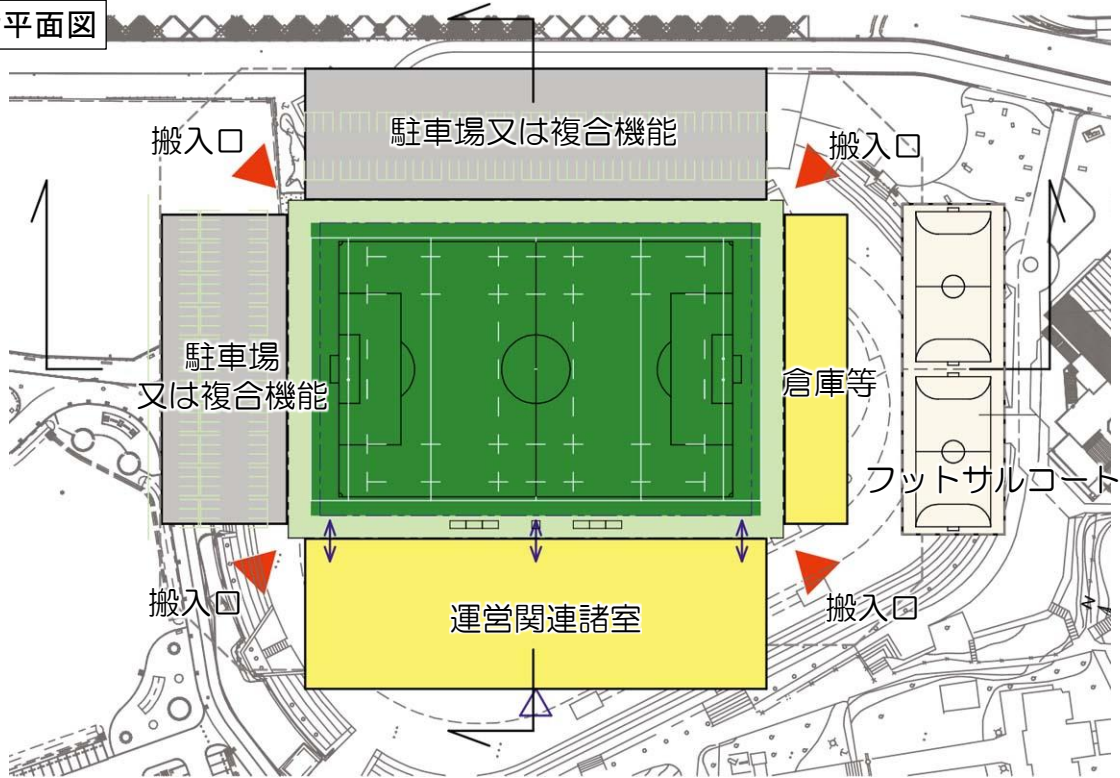


- ◇ 主要施設はメインスタンドに集約し、1階に運営関連諸室、2階に観客関連諸室、3、4階にVIP関連諸室、5、6階に各種操作室・メディア関連諸室を配置する。
- ◇ 観客は2階の外周コンコースから各客席に導く。
- ◇ 観客席最前列はフィールドと極力高さを合わせ、ゼロタッチを目指す。
- ◇ 芝生育成に太陽光が必要であり、南サイドスタンドの屋根の高さを低く抑える。
- ◇ 各階の観客席を互いに重ね合わせることでコンパクトなスタジアムを実現する。
- ◇ ホーム側サポーターが利用する北サイドスタンドについては、重なりを設けず一体感を創出する。



## ■平面計画

1階平面図



- ◇ 1階には主に運営関係者諸室を配置する。
- ◇ コーナー部には諸室を設けず、資材搬入と芝生育成のため通風を確保する。

2階平面図



- ◇ 観客は2階（外周コンコース）に上がり、そこから各席にアクセスする。
- ◇ 外周コンコースは移動しやすくするため、周回できるように配置する。